

卸売業

回答企業29企業

概況



～業況判断D I 値 大幅悪化～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比31.0ポイント低下の▲31.0と大幅悪化したが、前回調査予想値(▲48.3)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で48.2ポイント低下の▲24.1、売上数量が34.4ポイント低下の▲17.2、利益でも51.7ポイント低下の▲34.5と全項目で大幅悪化となった。

分野別の状況

～総合的業況は大幅悪化で推移～

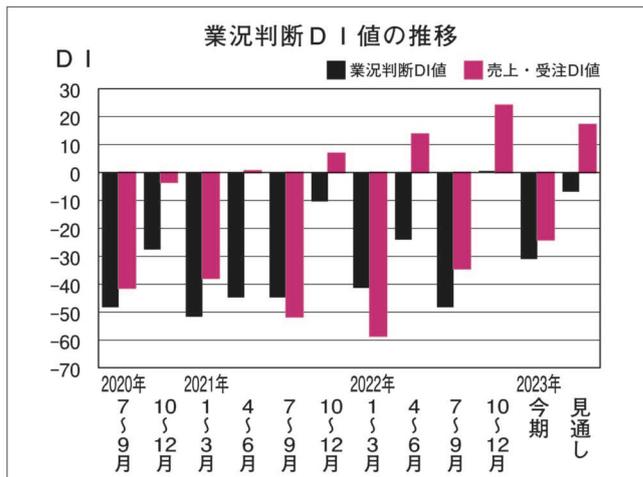
酒類等卸売業は、飲み会等自粛業種も徐々に再開しており、売上回復基調にあるが、もう少し時間を要する見通し。  
 食料品卸売業は、売上高はやや増加となったが、仕入価格や経費の増加により、利益圧迫し業況はやや悪化となった。  
 野菜・果実卸売業は、消費市場での流通量の多さから販売価格低下傾向にある。  
 衣料品卸売業は、冬期間の閑散期でもあり、売上・利益は減少した。  
 建設・建設資材卸売業は、仕入価格上昇するが、価格転嫁を図ることで売上増加し利益も確保でき、業況順調に推移した。  
 業種間格差や価格転嫁の成功度合いにもよるが、季節的要因(閑散期)により売上・利益減少しているところへ、諸経費高騰により利益圧迫し、業況大幅悪化した。

来期の見通し



～業況判断D I 値 大幅改善の見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比24.1ポイント上昇の▲6.9と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で41.3ポイント上昇の17.2、売上数量が41.3ポイント上昇の24.1、利益でも31.0ポイント上昇の▲3.5と全項目で大幅改善の見込みとなった。  
 仕入れ価格の高騰、経費の増加が継続して予想されるが、季節的イベントの開催に向けて期待感が大きく、業況は大幅改善見込みとなった。



小売業

回答企業91企業

概況



～業況判断D I 値 やや悪化～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比3.3ポイント低下の▲23.1とやや悪化し、前回調査予想値(▲38.5)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で2.2ポイント低下の▲11.0、売上数量が5.5ポイント低下の▲13.2、利益でも8.8ポイント低下の▲23.1と全項目でやや悪化となった。  
 業種間格差があるが、仕入価格高騰に対し価格転嫁に苦戦している業種が多い。依然として厳しい状況が継続している。

分野別の状況

～総合的業況はやや悪化で推移～

食料品・酒類小売業は、新型コロナウイルス感染症の影響は少なく、来店客数の増加も見られるが、人件費の増加や原材料等の値上げにより利幅が減少し、厳しい状況が続いている。販売価格を据え置いたままで、価格転嫁が進まない状況にある。  
 漆器・墓石小売業は、幅広い年齢層に訴求する商品開発が課題となっている。  
 建設資材・農業機械小売業は、冬期間でもあり受注件数が減少している中で、納品遅れ・仕入価格値上げなどの影響により業況はやや悪化した。  
 燃料等小売業は、原油価格高騰により販売価格の値上げを行い、売上は増加となったが、物価高に伴う経費増加により利益減少した。  
 家電小売業は、物価高騰による買い控えや商品単価当たりの利幅減少により、業況やや悪化している。

来期の見通し



～業況判断D I 値 横ばいの見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比0.0ポイントの横ばいで▲23.1の見通しである。項目別では、売上・受注で22.0ポイント上昇の11.0、売上数量が2.2ポイント上昇の11.0、利益でも6.6ポイント上昇の▲16.5と全項目で改善の見込みとなった。  
 各種イベント開催に対する期待感から横ばいの見通しとなったが、来期についても、仕入価格のさらなる高騰が予想され、価格転嫁に苦慮する業種多く、依然として厳しい業況が継続する見込みとなった。

